

*Asian
Women's Fund*

「従軍慰安婦」に
された方々への
償いのために②





アジア女性基金の活動に、 私は、賛同します。

小山内美江子 脚本家

加藤 一郎 成城学園名誉学园长

岸田 純之助 (財) 日本総合研究所名誉会長

「歴史の負債」の処理の中で最も急ぐのが、寿命に限りのある、人々の受けた犠牲であり、「従軍慰安婦」問題はその中でも緊急を要する。
それ以外の強制連行された人々についても同じ。
また、中国に破壊されたままの「化学兵器」処理、在日米軍の削減・撤退
とりわけ沖縄のそれも。

倉嶋 厚 気象エッセイスト



❖ ❖

**Asian
Women's Fund**

**「従軍慰安婦」に
された方々への
償いのために②**



財団法人 女性のためのアジア平和国民基金
(アジア女性基金)

Asian Women's Fund

CONTENTS

はじめに.....	3
総理の手紙.....	5
理事長の手紙.....	6
ソイリビンでお届けを開始.....	8
三人のことば.....	
これは始まり.....	
マリア・ロサ・ルナ・ヘンソンさんのプロフィール.....	12
奨金者からのメッセージ.....	16
ソイリビンの支援団体・アジア女性基金に関する委員会.....	21
ソイリビンでのお知らせの内容.....	24
ソイリビンの新聞報道.....	
アジア女性基金の活動.....	30
募金の推移.....	
募金の送金方法.....	
呼びかけ人・役員・運営審議会委員.....	38
〈英訳文〉.....	
アジア女性基金の活動.....	
アジア女性基金に関する委員会.....	
奨金者からのメッセージ.....	
理事長の手紙.....	
総理の手紙.....	

一 はじめに

女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）は、一九九五年八月以来一年間、国民のみなさんに募金を呼びかけてきました。このたびみなさんからお寄せいただいた奨金から、「従軍慰安婦」にされた数名の方に償い金をお渡しする事業を開始いたしました。一九九六年八月十四日、ワイリピンのマニラ市内のホテルで、私どもの趣旨をお伝えし、あわせて理事長の手紙と奨金者から寄せていただいたメッセージをお渡ししました。また、政府からは、「総理の手紙」を湯下駐比大使よりお渡ししました。

このように償い金のお届けが開始できたのは、ここある国民のみなさんが積極的に私たちの呼びかけに応え、奨金していただいた結果です。参加と協力をいただいたみなさんに、深く敬意と感謝を申し上げます。

私どもは、当面、韓国・台湾でも償い金をお渡ししていくことにしております。関係政府、団体には、私たちの事業につき、今後さらに理解が得られるように努力してまいります。

女性のためのアジア平和国民基金は、引き続き政府とともに、「従軍慰安婦」にされた方々に道義的責任を果たすため、医療福祉支援事業を実施します。

さらに、「慰安婦」問題の真実を明らかにし、歴史の教訓とするための資料調査研究事業も実施してまいります。

アジア女性基金の事業は、まだ緒についたばかりです。国民のみなさんにもさらにご理解とご支援をいただいて、政府とともに基金の使命を全うしてまいらなければなりません。重ねてみなさんのご支援と一層の拠金を切に願う次第です。

一九九六年八月

二 総理の手紙

拝啓

このたび、政府と国民が協力して進めている「女性のためのアジア平和国民基金」を通じて、元従軍慰安婦の方々へのわが国の国民的な償いが行われるに際し、私の気持ちを表明させていただきます。

いわゆる従軍慰安婦問題は、当時の軍の関与の下に、多数の女性の名誉と尊厳を深く傷つけた問題でございました。私は、日本国の内閣総理大臣として改めて、いわゆる従軍慰安婦として数多の苦痛を経験され、心身にわたり癒しがたい傷を負われたすべての方々に対し、心からおわびと反省の気持ちを申し上げます。

我々は、過去の重みからも未来への責任からも逃げるわけにはまいりません。わが国としては、道義的な責任を痛感しつつ、おわびと反省の気持ちを踏まえ、過去の歴史を直視し、正しくこれを後世に伝えるとともに、いわれなき暴力など女性の名誉と尊厳に関わる諸問題にも積極的に取り組んでいかなければならないと考えております。

末筆ながら、皆様方のこれからの人生が安らかなものとなりますよう、心からお祈りしております。 敬具

平成八（一九九六）年

日本国内閣総理大臣 橋本龍太郎

三 理事長の手紙

謹啓

日本国政府と国民の協力によって生まれた「女性のためのアジア平和国民基金」は、かつて「従軍慰安婦」にさせられて、極しがい苦しみを経験された貴女に対して、ここに日本国民の慎いの気持ちを届けたいとします。

かつて戦争の時代に、旧日本軍の関与のもと、多数の慰安所が開設され、そこに多くの女性が集められ、将兵に対する「慰安婦」にさせられました。十六、七歳の少女もふくまれる若い女性たちが、そうとも知られずに集められたり、占領下では直接強制的な手段が用いられることもありました。貴女はどのような犠牲者のお一人だとうかがっています。

これは、まことに女性の根源的な尊厳を踏みにじる残酷な行為でありました。貴女に加えられたこの行為に対する道義的な責任は、総理の手紙にも認められている通り、現在の政府と国民も負っております。われわれも貴女に対して心からお詫び申し上げる次第です。

貴女は、戦争中に耐え難い苦しみを受けただけでなく、戦後も五〇年の長きにわたり、傷ついた身体と残酷な記憶をかかえて、苦しい生活を送ってこられたと拝察いたします。

このような認識のもとに、「女性のためのアジア平和国民基金」は、政府と

理事長の手紙

もに、過去一年間、国民に募金を呼びかけました。ところある国民が積極的
にわれわれの呼びかけに応え、拠金してくれました。そうした拠金とともに送ら
れてきた手紙は、日本国民の心からの謝罪と償いの気持ちを表しております。

もとより謝罪の言葉や金銭的な支払いによって、貴女の生涯の苦しみが償える
ものとは毛頭思いません。しかしながら、このようなことを二度とくりかえさな
いという国民の決意の徴として、この償い金を受けとめて下さるようお願いい
たします。

「女性のためのアジア平和国民基金」はひきつづき日本政府とともに道義的
責任を果たす「償いの事業」のひとつとして医療福祉支援事業の実施に着手いた
します。さらに、「慰安婦」問題の真実を明かにし、歴史の教訓とするための資
料調査研究事業も実施してまいります。

貴女が申し出てくださり、私たちはあらためて過去について目をひられました。
貴女の苦しみと貴女の勇気を日本国民は忘れません。貴女のこれからの人生がい
くらかでも安らかなものになるようにお祈り申し上げます。

敬具

一九九六年 月 日

財団法人

女性のためのアジア平和国民基金

理事長

原文兵衛

四 フィリピンでお届けを開始

アジア女性基金は、第2グループの中で、まずフィリピンで償い金のお届けを開始した。

一九九六年八月十三日にフィリピンで発行される英字二紙にお知らせを掲載した。これにより数人の申請があり、フィリピン政府の協力を得て認定手続きが行われて、十四日、認定された四人のうち三人が出席し伝達式を行った（一人は公開の席に出席しない意思のため欠席）。

同日現地時間の午後二時、マニラ市内のハイアット・リージュンシー・ホテル内会議室で式典は催された。

出席したのはマリナ・ロサ・ルナ・ヘンソンさん、アナスタシア・コルテスさん、ルソイナ・フェルナンデスさん。アジア女性基金側から有馬真喜子副理事長、林陽子運営審議委員、在比日本大使館からは湯下博之大使など関係者が並んだ。

式は林運営審議委員の司会で始まり、有馬副理事長が冒頭あいさつ、理事長の手紙と拠金者からのメッセージをお渡しした。つづいて湯下大使が総理の手紙をお渡した。

■三人のことば

続いて三人の女性たちは次の通り発言した。

ヘンソンさん「いままで不可能と思っていた夢が実現しました。たいへん幸せです」

コルテスさん「五十年以上、がまんし苦しんできましたが、いまは正義と助けを得られて幸福に思っています」

フェルナンデスさん「今日、みなさまの前に出たのは、総理の謝罪を得られたからです。感謝しています」

さらに記者会見で質問に答えて、次の通り語った。

ヘンソンさん「（総理の手紙を受け取って）受け取りを希望していたので、幸せ」

「（これで許すのかの質問に）一九九二年九月に名乗り出てから何度も『許すのか』と聞かれた。そして『許した』と答えてきました。なぜなら、そうしないと神様が自分を許さないと思うからです。しかし、裁判は続けたい」

償い金の使い道についての質問への答。

ヘンソンさん「医療費、家の修理、子どもたちの生活援助、身体にあつた食べ物」

コルテスさん「家を買いたい。身体のカエツクをし、子どもたちの面倒をみたい」

フェルナンデスさん「身体の状態をはっきりさせたい。家のローンに充てたい」

Asian Women's Fund

■「これは始まり」

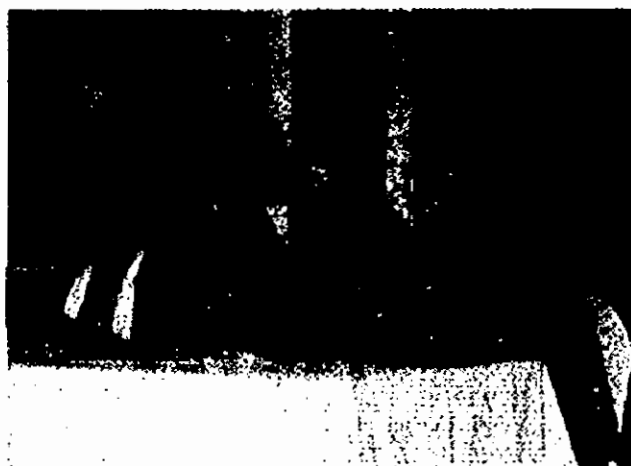
記者会見で有馬副理事長は感想を問われて、「あらためて、日本はこの女性たちに酷いことをしたという思いと、『慰安婦』とされた女性たちが基金の償いの気持ちを受け入れてくださった優しさに感動しています。これは単に始まりであり、課題は山積しています」と述べ、「フィリピンで開始できたのは、フィリピン政府の協力があつたからで、感謝しています」と続けた。

八月二十日には、タガログ語でも「お知らせ」の広告を掲載した。



▲受け取ったばかりの「総理の手紙」をかざすヘンソンさん（左）たち
ヘンソンさんはこの後、鎖に入れているという

11



▲女性たちに有馬副理事長から理事長の「手紙」をお渡しし、
一人ひとりに語りかける

■マリア・ロサ・ルナ・ヘンソンさんのプロフィール

フィリピンで初めて「総理の手紙」「償い金」を受けられたのは、マリア・ロサ・ルナ・ヘンソンさん。韓国に続いてフィリピンで初めて「従軍慰安婦」にされたことを名乗り出た最初の方でもあります。

マリア・ロサ・ルナ・ヘンソンさんは、一九二七年十二月五日、フィリピンのマニラ近郊バサイで生まれた。大地主の父とその家事使用人であった母の間にできた婚外子であった。彼女がカトリック系の小学校を卒業する直前、一四歳の誕生日の三日後に太平洋戦争が始まり、フィリピンは日本軍に占領された。

一九四二年二月、彼女は日本兵にレイプされた。そのとき、彼女は家で使う薪を探りに、叔父や近所の人たちと一緒に出かけていた。みんなと離れて、乾いた木片を束ねる準備をしていた時だった。突然二人の日本兵が現われ、彼女の両腕をつかんだ。彼女は悲鳴をあげて抵抗したとき、日本の将校が近寄ってきて、彼女を取り上げ、レイプした。その後で二人の兵隊にもレイプさせたのである。ひどく出血し、立ち上がることもできなかった彼女は、幸いにも、通りかかった農夫に助けられたのである。

おそるべきことだが、彼女は二週間後、薪採りに行って、同じ日本人将校に見つかり、ふたたびレイプされたのである。それで二度とそのようなことがないよ

うに、彼女は母の故郷のアンヘレス市郊外の村に逃れたのである。そのような経験を経て、日本軍に対する激しい怒りを感じていた彼女は、誘いをうけて、抗日人民軍、ソクバラハップに参加した。そして一年間活動した。

だが、一九四三年四月、アンヘレス市郊外で任務遂行中、日本軍の検問所を通り過ぎようとしたところ、彼女だけが捕えられ日本軍の治安部に連れて行かれて、「慰安婦」にさせられてしまったのである。彼女はそれと十六歳であった。そこには同じような六人の女性がいた。彼女はつぎのように証言している。

「十二人の兵隊がたて続けに私をレイプした。それから三十分くらい休みがあった。またもや十二人の兵隊がきた。彼らは部屋の外に立って、順番がくるのを待っていた。『ひどく出血し、身体が痛んだ。食事も食べられなかった。彼女は泣き続け、母の名を呼んだ。兵士たちに殺されるかもしれないので、抵抗しようがなかったのだ。毎日、昼の二時から夜の十時まで、兵隊たちは私の部屋と他の六人の女性の部屋の外に列をつくって並んでいた。』

彼女は九か月間、このような生活を送ったあと、一九四四年一月、ゲリラによって救出された。連合軍の上陸によってフィリピンは日本軍の占領状態から解放された。

日本降伏後の一九四五年九月、彼女はフィリピン軍兵士と結婚した。二人の娘が生まれたあと、一九五〇年に夫は共産軍に参加して去り、三年後に死んだ。その後、洗濯婦や煙草工場の労働者として働き、子どもたちを育てた。

Asian Women's Fund

一九九三年、日本軍の「慰安婦」にされた女性に名乗り出るように求めるラジオ放送を聞き、彼女は激しく心を揺り動かされた。同居している娘に彼女は自分の過去を始めて話すと、励まされた。そこで彼女は名乗り出ることを決断し、ネリア・サンチョらに会って自分の経験を話した。そのときの気分について、彼女は、経験したことを語るのはとてもつらいことだったが、話してみても重荷がとれ、心からトゲが抜き取られるように感じた、失われていた自尊心を取り戻した、と回想している。

そこで一九九三年九月十八日、彼女は日本軍の「慰安婦」にされたフィリピン女性として、はじめて記者会見の場に立った。日本大使館の前でデモもしたし、当時の宮沢首相にも謝罪と補償を求める手紙も書いた。一九九三年四月、彼女は他の十八人とともに日本政府に謝罪と補償を求める訴訟を東京地裁に提起した。

ロサ・ヘンソンさんは一九九六年フィリピンで出版した自伝、*Maria Rosa L. Henson: Comfort Woman: Slave of Destiny* (Philippine Center for Investigative Journalism, 1996)の結びに、つぎのように述べている。

「これまで私は何度も、いまでも日本人に対して怒りを感じるかと聞かれた。おそらく信仰が救いとなっているのだろう。私は苦しみを受け入れることを学んできた。同時に、許すことも学んだ。イエス・キリストが、自らを十字架にかけた人々を許すことができたのだから、私もまた、私を凌辱した人間たちを許す心をもつことができるはずだと思ったのだ。半世紀の月日が流れた。私の怒りも憤



マリア・ロサ・ルナ・ヘンソンさん(フィリピン)

りも、昔のままでないかもしれない。自分の経験を語ることにより、過去を受け入れる気持ちをもつことができるようになってきた。それでもなお私は、正義が果たされるのを、死ぬ前に見届けたいと望んでいる。」

■拠金者からのメッセージ

アジア女性基金に個人・市民グループから寄付とともにメッセージがたくさん寄せられています。このメッセージは寄付された方々の気持ちであり、一人一人の募金の趣旨を表しています。このメッセージは、翻訳して犠牲者の方々にお渡ししています。

人間としてのおわび

◎議論はあっても行動することが大事だと考え、ささやかながら協力させていた
できます。

◎慰安婦であったために、不幸な人生を送られた方々に、ぜひ手厚いお詫びと、
これからの幸せをお祈り申し上げたいと思います。十分なお手伝いはできませ
んが、一日二時間くらい家でできるボランティアがあつたらお申しつけくださ
い。早めの償いをここからお願ひいたします。

◎こういうアジア女性基金ができるのを待っていました。日本人としての胸のつ
かえが少し軽くなる思いです。うれしいことです。

少しずつでも、できることから

◎戦中、私はまだ子供でしたが、後に「従軍慰安婦」の存在を知り、この犠牲に

なった女性たちの悔しさを察して、このような非道な策を実行した日本軍隊に対する怒りで身が震えました。この罪の償いは日本人一人一人が果たすべきものと考えます。その具体的な行動の一つとしてこの募金の意義を認めます。

◎相手国の立場、日本政府の理屈もあるでしょうが、ODA（政府開発援助）より優先して償うべきと考えます。

◎元慰安婦の方々の名誉回復に役立つような形で活用してほしいと思います。と同時に、これで日本政府の責任が済んだというのではなく、事実解明等、種々の努力を継続することも訴えてください。

戦争を知らない若者から

◎この国の人間である以上、この国の過去の過ち、歴史からのがれることはできません。従軍慰安婦とされた皆様に、日本人として人間として心からお詫び申し上げます。アジア女性基金のご成功をお祈りいたします。……あの戦争を知らない二十七歳の若者より。

◎「民衆の側の戦争責任」自覚のもとに参加します。

Asian Women's Fund

きちんと過去の清算を

◎「従軍慰安婦」とされた方々へ私は深く頭を垂れお詫びを申し上げます。この方々への償いは「国」が「国」としてするべきであると強く思います。しかし、この方々の五十年後のいまは、年老いておられ、残された時は少ないことを思います時、私は原則論を曲げます。日本国民の一人として、償いのために用いていたできるだけ送金いたします。この方々の苦痛が少しでも和らいでいただくことができますようにと念じます。そして二度とこのような歴史をつくつてはいけないうまく思います。

軍人恩給の一部を寄付

◎かつての兵士として、軍人恩給の一部を寄付します。しかし一言言わせてもらえば、戦場心理は現場にいたものには理解できないもの。軽々しく見ないでほしい。

戦後五十年、新しい出発点に

◎国の謝罪と補償が良いと思いますが、そこへの過程としての民間基金に賛意を表します。ささやかですが家族四人の募金です。活用ください。私の父はいま七十七歳で、満州、沖縄で参戦しました。基金の成功をお祈りいたします。

◎アジアの国々との間に、よい関係を育てていくために、小さな小さな協力をさ

せていただきたいと思いました。

◎ひどい目にあってゐる女性は今もたくさんいます。がんばってください。

◎戦争責任の処理だけでなく、現在もある無責任な日本人男性の犠牲となつてゐる、父親のないアジアの国々の子供たちのためにも、救いの手をお願いします。

■寄付をしていただいた方を訪ねて

「私はずっと貧しい暮らしをしてきました……」

Uさんは、ある町の老人施設に入っておられるかたです。八十二歳と高齢で、お連れ合いをもう十年以上前に亡くされ、お子さんはなく、独りであると話されました。「従軍慰安婦」のことは新聞で知って驚いた、八月の新聞広告で基金のことを知ったので、定額貯金を解約しに、足が不自由ですが自分で郵便局へ行き、代筆してもらつて送金した。そのために匿名にできなかった。利子も一緒にと局員に言つて、そのために募金額に端数が出た……といったことがわかりました。

Uさんは二度、「私はずっと貧しい暮らしをしてきました」と話されました。深い意味での同情です。「日本は韓国からいろいろと言われている、償いが必要です」とUさんは言われました。私が、基金は批判を受けており、いろいろな意見があると申しますと、「国民と政府を分ける必要はないでしょう」と言われました。

Asian
Women's
Fund

20

戦前から日本に住む在日韓国人として

Mさん……最初に電話でお話をして、日本名の向こうに想いを胸に秘めた在日韓国人の姿があるとは、まったく思いおよびませんでした。

奥様はこんどの寄付に反対されました。……「なぜ韓国人が、この問題に寄付しなければならぬのか」。これにMさんは、「犠牲者は韓国人だけではない。

『大東亜共栄圏』といわれた地域の全体で女性たちが苦しんだ。戦前から日本に住んでいる者としてお金を出す意味がある」と言われました。

■フィリピンの支援団体 アジア女性基金に関する委員会

フィリピンの元「従軍慰安婦」支援団体リラ・ビリピーナは、アジア女性基金を受け入れたいと希望する元「従軍慰安婦」の方々のために、受け入れ作業を支援する組織「アジア女性基金に関する委員会」を設立しました。以下はリラ・ビリピーナが発表した「アジア女性基金に関する委員会の概要」です。

「アジア女性基金に関する委員会」の概要（仮訳）

アジア女性基金に関する委員会

背景

「アジア女性基金に関する委員会」(The Committee on the Asian Women's Fund)は、アジア女性基金を受け入れようとする日本の元「従軍慰安婦」であったフィリピン人生存者に対する支援を行うためのメカニズム（機構）を発展させるとのリラ・ビリピーナ全国委員会の決議により創設された。委員会はリラ・ビリピーナとは別の独立した組織である。

Asian Women's Fund

機能と目的

委員会は次の機能と目的を有する。

委員会は、フィリピン・日本両政府ならびにフィリピン生存者のための支援グループ（複数）と協議の上、各犠牲者・生存者それぞれのニーズと状況を考慮に入れ、生存者がアジア女性基金を受け入れるプロセスの形成に参画する。

二 委員会は、認定プロセスが行われる際、必要な事項に対する助力、生存者各自のニーズや問題を明確にすること、ならびにアジア女性基金受け入れ過程における犠牲者の権利の保護、増進の観点から生存者を支援する。

三 委員会は、生存者のためのアジア女性基金の事業の処理、立案および実施につき、アジア女性基金および日本・フィリピン両政府の代表と連絡し協議する。

構 成

委員会は、基金受け入れの過程でリラ（訳注：タガログ語で「おばあさん」の意）たちを支援するため、それぞれの専門知識を提供するさまざまな分野の専門家で構成される。その専門家には心理学者（二名）、医師（二名）、法律家（二名）、歴史学者（一名）、常勤調査員（二名）、リラ・ピリピーナ代表（二名）およびアジア女性人権審議会（AWHRC）（訳注：NGO）代表（一名）をふくむ。

Asian Women's Fund

■フィリピンでのお知らせの内容

女性のためのアジア平和国民基金は、このたび、先の大戦中に「従軍慰安婦」とされたフィリピンの犠牲者の方々への道義的責任を果たすため、国民の憤いの気持ちを表わす一時金のお届けをいたします。なお、一時金をお届けする方に対して、日本国内閣総理大臣の手紙が届けられることとなります。また、プライバシーは保護されます。

一 対象：一九九五年七月十九日（女性のためのアジア平和国民基金の設立日）現在ご存命の「従軍慰安婦」とされた犠牲者の方およびその遺族（配偶者及び子）の代表者の方で正規の手続きを経て認定された方

二 受付期間：このお知らせの日より五年間

三 連絡先：電話番号 896-8268

受付時間（土曜、日曜、祝祭日を除く毎日午前十時から正午及び午後二時から午後五時まで）

私書箱

フィリピン、マカティ市
マカティ中央郵便局私書箱4704号

該当されると思われる方は、上記連絡先から手続きのための用紙を入手し、上記の受付期間内に指定された提出先へ同用紙を提出していただくことになります。
一九九六年八月十三日

女性のためのアジア平和国民基金

理事長 原文兵衛

Balita
 ★ ★
 1100 Ave. Commonwealth, Palmdale, CA 93550
 (818) 865-1100

[illegible]

The following are some of the more interesting items found:

94-46000-174

See Missing Map Case

[illegible]

24, 2001
Fungus
on Wagon's Fand
at dining Fungus
of (1999) 1999
Fungus (1999)

[illegible]

Monday, August 24, 1965 239

Ang Asian Women's Fund (AWF) ay nagtataguyod ng tatlo: ibang pangkat ng mga kababaihan ng mga mamamayan ng ibang bansa, ibang mamamayan ang mga kababaihan ng mga bansa, at mga kababaihan ng mga bansa ang mga kababaihan ng mga bansa. Ang AWF ay nagtataguyod ng tatlo: ibang pangkat ng mga kababaihan ng mga mamamayan ng ibang bansa, ibang mamamayan ang mga kababaihan ng mga bansa, at mga kababaihan ng mga bansa ang mga kababaihan ng mga bansa.

Ang kagangpang ng mga kamagulangang

Page 1 of 1
[Long for copyright 1] August 1984

17-12 of stamps of 2 1/2 x 4 paper, number of
page below of Subst. 1, page, of 10 page
including index of Subst. 1
Postal Box Office No. 4704
United States Post Office
United City, Philadelphia

[illegible]

Support 100%
Purple
John Warner's Fund
at doing Purple
House of Congress
January 2001

The following information is provided for the purpose of providing information to the public regarding the activities of the Department of the Interior, Bureau of Land Management, in the area of the proposed project. The information is provided for the purpose of providing information to the public regarding the activities of the Department of the Interior, Bureau of Land Management, in the area of the proposed project.

PHILIPPINE DAILY INQUIRER

MANILA BULLETIN THE NATION'S LEADING NEWSPAPER

Tues., August 13, 1986

ANNOUNCEMENT

The Asian Women's Fund (AWF) will disburse a sum of money to offer assistance from the Japanese people to meet moral responsibility to those who suffered as "war-time comfort women." A letter will also be sent from the Prime Minister of Japan to the recipients of the above-mentioned sum. The privacy of each recipient will be protected.

Eligibility:

Surviving former "war-time comfort women" as of 18 July 1986 (the date of the establishment of the AWF) and, if deceased since above-mentioned date, a representative of the deceased family (family, spouse and children), subject to recognition as such through the regular procedure, shall be eligible.

Period of Application: Five years from the publication of this announcement.

Inquiry:

Please call Telephone No. 699-62-88 (10-12 a.m. and 2-5 p.m., except on Saturdays, Sundays, and holidays).
Postal Box Office No. 4774
National Central Post Office
Manila City, Philippines

Those who meet the eligibility criteria are requested to obtain application forms from the above-mentioned inquiry points, and to submit or return the completed forms within the period of application.

SHIMIZU HARUO
President
Asian Women's Fund
and Former President
House of Representatives
The Japanese Diet

The Asian Women's Fund, in cooperation with the Government and people of Japan, is engaged in realizing the national statement from the Japanese people, and moral and welfare assistance program to meet their responsibility to those who suffered as former "war-time comfort women."

ANNOUNCEMENT

The Asian Women's Fund (AWF) will disburse a sum of money to offer assistance from the Japanese people to meet moral responsibility to those who suffered as "war-time comfort women." A letter will also be sent from the Prime Minister of Japan to the recipients of the above-mentioned sum. The privacy of each recipient will be protected.

Eligibility:

Surviving former "war-time comfort women" as of 18 July 1986 (the date of the establishment of the AWF) and, if deceased since above-mentioned date, a representative of the deceased family (family, spouse and children), subject to recognition as such through the regular procedure, shall be eligible.

Period of Application: Five years from the publication of this announcement.

Inquiry:

Please call Telephone No. 699-62-88 (10-12 a.m. and 2-5 p.m., except on Saturdays, Sundays, and holidays).
Postal Box Office No. 4774
National Central Post Office
Manila City, Philippines

Those who meet the eligibility criteria are requested to obtain application forms from the above-mentioned inquiry points, and to submit or return the completed forms within the period of application.

SHIMIZU HARUO
President
Asian Women's Fund
and Former President
House of Representatives
The Japanese Diet

The Asian Women's Fund, in cooperation with the Government and people of Japan, is engaged in realizing the national statement from the Japanese people, and moral and welfare assistance program to meet their responsibility to those who suffered as former "war-time comfort women."

Asian Women's Fund

Standard

August 16, 1996

Page No. 2

TODAY

August 16, 1996

Page No. 1

Comfort women accept apology

By SHELLEY TALAMON

JUST like the Philippines government 20 years ago, four Filipino women who spent two years during World War II have accepted war compensation from the Japanese government yesterday.

Maria Rosa Hernandez, 67, Anacleto Cortes, 73, Rufina Fernandez, 64, and one who remained anonymously named, 52, received a total of \$200,000 each as compensation.

The money was raised by the Asian Women's Fund, a privately run compensation organization. They will also be entitled to a pension and medical benefits worth 3 million yen from the Japanese government in a sum of 20 years.

Lola Rosa, the first Filipino comfort woman, was publicly released the honor of being named a National Heroine by the Japanese Imperial Army, said the vice president of the fund.

Marking Armistice, the Fund's vice president, said that the Japanese have "no choice" but to accept the money and apologize for ever inflicting the suffering pain of

these who suffered. "I am not grateful by any means," she said. However, she stated that she will be grateful to the Japanese people's sincere apology and that she understands the need to accept such offers by the Fund and Japanese government.

Eight years after the war, the Philippines is the only country in Asia that received war compensation from the Japanese government, Korea and China excluded.

In her letter to the comfort women, Hashimoto said the Japanese government is deeply sorry for the suffering and pain of the women and that it will do its best to help them in the future.

Sumiko Imai, president of the fund, also expressed her sympathy for the women and their families.

She said that the fund is a private organization and that it is not a government agency. She also said that the fund is a private organization and that it is not a government agency.

Lola Rosa just wants peace

Maria Rosa Hernandez wanted a lot of women when she became the first Filipino to publicly accept her wartime role as a sex slave for Japanese soldiers.

Now she says she just wants peace. Hernandez, 67, told that of those former "comfort women" who received personal letters of apology from Japanese Prime Minister Ryutaro Hashimoto Wednesday and pledges of \$10,000 from a newly created Japanese comfort fund.

"Now, my dream has become a reality," said Hernandez, who taught the Japanese government would never admit the atrocities committed by its military during World War II.

Hernandez said Japanese soldiers kept her for a long time in a room near their barracks and took her to the field, even when she was sick.

Once, when she had a fever, a Japanese soldier became angry and slapped her head against the wall until she passed out.

The only reason she was able to survive a few times' sleep or even a longer rest, after her capture by Japanese soldiers in 1944, she said, was that she was a Christian and did not regard prostitution as a sin.

When she woke up, Hernandez couldn't speak. She was so scared and had to wipe the sweat of her mouth when she spoke.

For nearly 30 years, she told nobody of her experiences apart from her mother. But in 1984 a woman's organization appealed over the radio for "comfort women" to come out in public.

Hernandez knew it was time to tell her story. Her courage inspired other women to speak openly of the horror they experienced. They had two demands - a public apology and their repatriation of \$100,000 each.

Hernandez's letter was the first time Japan has officially apologized to the women and the Asian Women's Fund, to provide financial assistance to the comfort women but most of them have refused to accept it.

Hernandez said she decided to accept the cash even though she is now 67 years old. She said she was planning to do with the \$10,000 what she liked and to contribute to her family. Then she went to see a doctor.

Hernandez, who worked in a cigarette factory for 30 years after the war, said she had a pack of cigarettes a day.

After giving some money to her children and grandchildren, she said she had for a long time.

Accepting the apology and compensation signals the end of the painful process. "It is the end because I promised myself, if you forget a person, you must forget him," she said. (Herald)

▲ロサお婆さんは
ひたすら平和を望むのみ

◆慰安婦、お詫びを受け入れる

Asian Women's Fund



August 16, 1976
Page 76

Filipino comfort women receive formal apology from Japanese Prime Minister

Filipino comfort women received a letter from Japanese Prime Minister Tanaka Kakuei Wednesday expressing "heartfelt sympathy and apology" for their suffering during World War II. The letter was sent to the Japanese Embassy in Manila. It was the first time since the war that the Japanese government has formally apologized to the victims of the "comfort women" system.

The letter was signed by Prime Minister Tanaka Kakuei. It expressed the Japanese government's regret and apology for the suffering of the comfort women during the war. The letter also mentioned the Japanese government's efforts to provide financial support and medical care to the victims.

The letter was sent to the Japanese Embassy in Manila. It was the first time since the war that the Japanese government has formally apologized to the victims of the "comfort women" system. The letter also mentioned the Japanese government's efforts to provide financial support and medical care to the victims.

▲フィリピンの慰安婦、日本の総理大臣から
正式のお詫びの手紙を受領

Malaya

August 16, 1976
Page No. 2

3 Filipino comfort women take Japan's atonement money

Japan's embassy here passed out letters of apology from the Japanese prime minister Wednesday to the last three Filipino "comfort women" accepting atonement money from a private fund for helping military personnel during World War II.

Officially said 1 million yen (\$10,000) in atonement money would be provided by the Japanese prime minister to each woman.

But when Japanese Prime Minister Tanaka Kakuei said Japan's embassy demanded direct compensation from the government in each case.

Many former "comfort women" in the Philippines have been refused to take the private money, saying the fund is an attempt by Japan to avoid taking full responsibility for its war-time actions.

Japan's government denied any involvement in the fund's work several years ago. It had continued to refuse to provide any government money to the women, saying that all war-related claims were settled by private treaties.

After groups of former "comfort women" began demanding compensation and an apology, the government created the private fund.

The Japanese government has been slow to respond to demands in the past.

Three years ago Japan's civil government opened new the fund and when the government first began helping officials and victims in the fund.

3名のフィリピン慰安婦、
日本の償いの金を受け取る

五 アジア女性基金の活動



一九九六年八月

「女性のためのアジア平和国民基金」は、昨年七月の発足以来、「従軍慰安婦」にされた方々への償いを行うことおよび女性の名誉と尊厳にかかわる今日的な問題に取り組むことを目的として、活動を続けてきました。「従軍慰安婦」にされた方々に国民的償いを表す事業を実施するために、広く国民に募金を呼びかけた結果、八月二十二日現在、募金総額は四億四、〇〇〇万四、二二一円となっています。その際、アジア女性基金には様々な意見や励ましの言葉が寄せられました。その一方で、基金はこれまでに関係各国・地域の犠牲者や関係者との対話を積み重ね、基金の事業に反映させるよう努めてきました。以下に記すのは、日本政府と基金が二人三脚となってこれらの成果を踏まえ決定した、基金事業の基本方針です。国民の償いの気持ちを一人でも多くの犠牲者の方にお届けできるよう、今後とも努力を続けていきたいと思えます。また女性に対する暴力等、今日なお存在する女性問題にも取り組んでいきます。

(一) 償い金―国民の償いの気持ち

「従軍慰安婦」にされた方々への「償い金」は、国民からの募金によって行われます。アジア女性基金は、韓国、フィリピン、台湾の犠牲者に対し、お一人当たり二〇〇万円をお渡しします。

(二) 総理の手紙

日本政府は、「従軍慰安婦」問題について、女性の名誉と尊厳を著しく傷つけた行為として、深い反省とおわびの気持ちを表明しており、「償い金」をお渡しする際には、一人一人の方に、総理からそのような気持ちを表す心のこもった手紙をお届けします。

(三) 医療・福祉支援事業

元「従軍慰安婦」の方々に対する医療・福祉支援事業は、日本政府が犠牲者への道義的責任を誠実に果たすために、対象国・地域である韓国、フィリピン、台湾の犠牲者に対し、総額七億円規模の政府資金を導入して行うものです。

この事業は犠牲者の方々の実情と希望に配慮し、お一人お一人が公平にアクセスできる方法で実施していきたいと考えています。

事業の内容は、①住宅改善②医療・医薬品補助等を想定しています。

Asian Women's Fund

(四) 歴史の教訓とする事業

このような問題が二度と繰り返されることのないよう、歴史の教訓として未来に引き継いでいくことを、アジア女性基金は活動の柱の一つとしています。

基金の中に、「慰安婦」関係資料委員会を設置し、歴史学者等の協力も得つつ、「従軍慰安婦」問題関連の資料の収集を、積極的に推進していくことにしています。

学校教育の現場においては、一九九三年、高等学校教科書にこの問題についての記述が取り入れられ、また今年はさらに中学校教科書にも記述されています。基金は、この問題が教育現場でも、正しく取り扱われるよう願っています。

(五) 今日的な女性問題への取り組み

女性の名誉と尊厳にかかわる今日的な問題に取り組むため、例えば左記のような事業を行います。

①国際フォーラムの開催

女性のリプロダクティブライツ、国際人身売買、家庭内暴力等をテーマに基金はESSCAPとの共催により一九九六年八月に国際フォーラムを開催しました。

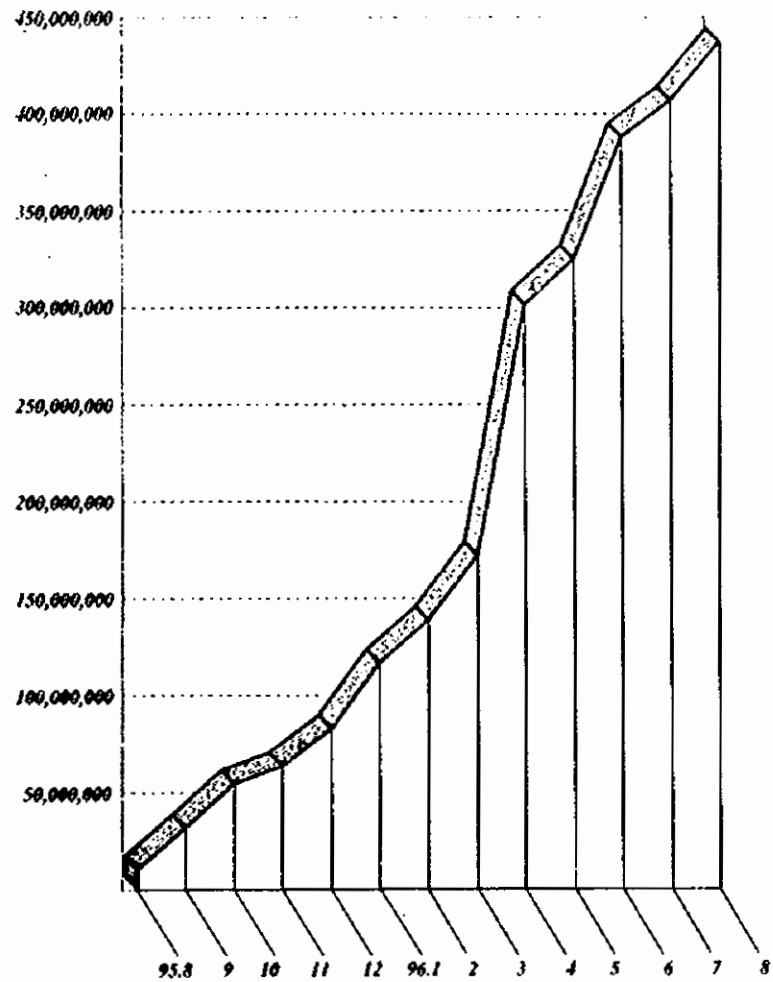
②女性の人権に関わる活動への支援

- ・様々な今日の女性問題に取り組む人々、団体等への助成
- ・女性に対する暴力の実情の調査およびその原因や予防等についての研究への支援
- ・女性の名誉と尊厳に関わる問題に取り組むボランティアに対するカウンセリング

Asian Women's Fund

■男金の推移

日付	金額	日付	金額
1995年8/16	14,549,933円	1996年2/2	142,987,169円
8/18	17,655,449円	2/8	144,457,949円
8/23	20,699,563円	2/16	146,851,262円
8/25	32,235,924円	2/23	168,591,616円
9/1	37,880,269円	3/1	176,112,186円
9/8	43,139,044円	3/8	211,214,928円
9/14	44,766,983円	3/15	213,432,168円
9/22	50,191,561円	3/22	217,213,915円
9/29	55,049,281円	3/29	221,177,740円
10/6	56,912,959円	4/12	318,853,124円
10/13	58,530,501円	4/19	326,750,897円
10/20	60,711,987円	4/26	332,825,585円
10/27	61,431,606円	5/10	336,291,308円
11/2	61,855,390円	5/17	338,441,721円
11/10	63,540,711円	5/24	340,072,943円
11/17	74,632,828円	5/31	347,011,005円
11/20	76,093,148円	6/7	378,154,182円
11/24	77,374,038円	6/13	401,254,182円
12/1	85,879,400円	6/28	408,647,704円
12/6	102,842,555円	7/5	413,365,500円
12/8	116,515,222円	7/10	414,738,485円
12/15	124,568,767円	7/18	418,231,279円
12/22	129,069,461円	7/24	419,836,382円
1996年1/4	133,754,507円	7/31	434,527,446円
1/12	134,990,889円	8/8	437,324,404円
1/18	135,948,788円	8/17	439,813,370円
1/26	139,971,669円	8/22	440,004,221円



Asian Women's Fund

募金の送金方法

（参考）

「従軍慰安婦」にされた方々への償いのために、みなさまの心ある募金協力をお願いいたします。

総理、各大臣、基金の呼びかけ人、理事、運営審議会委員一同は率先して募金に応じました。公職にある方々は積極的に協力してくださいようお願いいたします。

国民のみなさま、金額はいくらでもいいのです。お詫びと償いのしるしとして、ご家族で、職場で、募金に協力してください。

▼基金への送金は、郵便局の振替をご利用くださるのが、もっとも便利です。郵便振替口座は

00180(3) 71164

「女性のためのアジア平和国民基金」です。

手数料は加入者負担です。郵便局窓口で伝えてください。

▼もちろん現金書留もご利用になれます。この場合は、拠金して下さるお気持ちなどを書いたお手紙をつけてくだされば、募金の拡大に活用させていただきます。

ます。

▼直接事務所にご持参くださっても結構です。事務所は土、日、休日以外は毎日あいています。銀行口座は手数料負担の問題があり、お願いしておりません。

▼次の二団体も窓口になっていただき、郵便振替をお願いしています。

日本赤十字社（振替口座 00120（0）7060）（本社扱い）

全国社会福祉協議会（振替口座 00180（6）540280）

振替用紙の「通信欄」に、「女性のためのアジア平和国民基金あて」と明記してください。

▼このパンフレットをまだ見えていないお知らせに見せてください。

基金では、パンフレットの二号、Q & A形式の簡単なリーフレットも用意しています。

このパンフレットとともに、アジア女性基金事務局に部数、送付先などを申し込んでいただきたい、お送りします。

■女性のためのアジア平和国民基金（アジア女性基金）

電話 03（3583）9346

住所 〒107 東京都港区赤坂二丁目十七番四 赤坂アネックス

Asian Women's Fund

呼びかけ人・役員・運営審議会委員

(五十音順)

呼びかけ人

赤松 良子 元文部大臣
 衛藤 清吉 東京大学名誉教授
 大鷹 淑子 元参議院議員
 岡本 行夫 国際コンサルタント
 下村 満子 ジャーナリスト
 須之部 景三 元駐韓国大使
 鶴見 俊輔 評論家
 野中 邦子 弁護士
 和田 春樹 東京大学教授
 芦田 其之助 日本労働組合総連合会会長
 大来 寿子 大来元外相夫人
 大沼 保昭 東京大学教授
 加藤 タキ コーディネーター
 鈴木 健二 熊本県立劇場館長
 高橋 洋起 政治評論家
 野田 愛子 弁護士
 萩原 延壽 歴史家

役員

理事長 原 文兵衛 前参議院議長
 副理事長 有馬 真淳子 ジャーナリスト、国連婦人の地位委員会日本代表
 副理事長 衛藤 清吉 東京大学名誉教授

運営審議会委員

理事 石原 信雄 元内閣官房副長官
大鷹 淑子 元参議院議員
金平 輝子 前東京都副知事
堀田 力 元護国、さわか福証財団理事長
山口 達男 元駐シンガポール大使
和田 雅夫 兼事務局長、前駐ラオス大使
橋本 豊 公益法人協会副理事長

榎本 庸夫 全日本自治団体労働組合中央執行委員長
金田 一郎 全国社会福祉協議会副会長
下村 満子 ジャーナリスト
宮崎 勇 元経済企画庁長官
鷺尾 悦也 日本労働組合総連合会事務局長

委員長

高崎 宗司 津田塾大学教授

副委員長

野中 邦子 弁護士、全国人権擁護委員連合会女性問題委員長

響庭 孝典 杏林大学教授

有馬真喜子 ジャーナリスト、国連婦人の地位委員会日本代表

後藤 乾 早稲田大学教授

中嶋 滋 全日本自治団体労働組合国際局長

橋本ヒロ子 十文字学園女子大学助教授

林 陽子 弁護士

横田 洋三 東京大学教授

The Committee on Historical Materials on "comfort women" has been established within the Fund, and actively promotes the collection of materials on the "wartime comfort women" issue, in collaboration with historians and other experts.

In 1993, mention of the issue was introduced into senior high school textbooks used in school education. In addition, it was decided this year that junior high school textbooks contain mention of the issue. The Fund wishes that the issue be treated correctly in school education.

(5) Dealing with Contemporary Issues on Women

In order to deal with the contemporary issues which offer affront to the honor and dignity of women, the Fund is carrying out the following projects.

(a) Sponsoring International Fora

In August 1996, the Fund sponsored with the Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (ESCAP) an international forum on such contemporary women issues as women's reproductive right, international traffic in human beings, and domestic violence.

(b) Support for Activities Promoting Women's Rights

- Financial support to people and organizations addressing a wide variety of contemporary women's problems.
- Assistance to investigations on the violence against women and researches on cause and prevention of the violence against women.
- Counseling to volunteers who address the contemporary issues which offer affront to the honor and dignity of women.

アジア女性基金の活動 Activities of the Asian Women's Fund

to each victim of the countries and region where the programs of atonement are to be implemented.... the Republic of Korea, the Philippines, and Taiwan.

(2) Letter from the Prime Minister

With regard to the issue of "wartime comfort women," the Government of Japan has expressed its sincere apologies and remorse, recognizing it was a grave affront to the honor and dignity of women. When atonement money is delivered to them, the Government of Japan will convey a sincere letter from the Prime Minister expressing these sentiments to each and every former "comfort woman."

(3) Medical and Welfare Projects

In order to meet, in all sincerity, the moral responsibility of the Government of Japan to the victims, medical and welfare projects will be implemented for the former wartime "comfort women", disbursing government funds totaling approximately 700 million yen for the victims of the countries and region concerned.... the Republic of Korea, the Philippines, and Taiwan. These projects will take into consideration the actual circumstances and wishes of the victims, and will be implemented in a manner that permits the access of each one of them on an impartial basis.

The medical and welfare projects would include to provide (a) dwelling improvements, (b) personal care services and (c) medical treatment and pharmaceuticals.

(4) Programs Underscoring Lessons of History

As a pillar of its activities, the Asian Women's Fund has established the goal that the programs should serve as a lesson of history for future generations in order to ensure that the issue never arises again.

英訳文 //

アジア女性基金の活動 Activities of the Asian Women's Fund

(Provisional Translation)

Activities of the Asian Women's Fund

August 1996

Since its establishment in July 1995, the Asian Women's Fund has continued activities whose purposes are to deal with atonement to those who suffered as "wartime comfort women" and to address the contemporary issues which offer an affront to the honor and dignity of women. As a result of its campaigns for contributions from a broad range of Japanese citizens, in order to implement programs enacting the Japanese people's atonement to the former "wartime comfort women," as of 22 August, the total amount of donations collected had reached 440,004,221 yen (approximately US\$4,110,000), and the Fund had received a wide variety of opinions and much encouragement.

In addition, the Fund has conducted many discussions with the victims and people concerned in the relevant countries and region, and has taken steps to ensure that the results of these discussions are reflected in the Fund's programs. The following describes the framework of the Fund's programs which were decided upon after these discussions. The Government of Japan and the Asian Women's Fund will work together, continuing their efforts to ensure that the Japanese people's feelings of atonement be conveyed to as many victims as possible and to address such contemporary issues as the violence against the women.

(1) Atonement Money · Atonement from the Japanese people

The atonement money for those who suffered as "wartime comfort women" is to be provided on the basis of contributions from the Japanese people. The Fund will provide two million yen to each

3. The Committee will liaise and discuss with representatives of the Asian Women's Fund, Japanese and Philippine governments in the processing, designing, and implementation of AWP programs for the survivors.

Composition

The Committee is composed of experts in various fields that will provide their expertise to support the Lolos in the process of availment. They include a psychologist, a medical doctor, a lawyer, a historian, two full-time researchers, a representative from LILA Pilipina and a representative from the Asian Women's Human Rights Council(AWHRC).

A BRIEF PROFILE OF THE COMMITTEE ON THE ASIAN WOMEN'S FUND

Committee on the Asian Women's Fund

Background

The Committee on the Asian Women's Fund was created following a resolution of the National Board of LILA Pilipina to evolve a mechanism through which to channel support to the Filipino survivors of Japan's wartime military "comfort women" who are availing of the Asian Women's Fund. The Committee is separate from, and independent of LILA Pilipina.

Functions and Purposes

The Committee has the following functions and purposes.

1. The Committee in consultation with the Philippine and Japanese governments and support groups for the Filipino survivors, will participate in the formulation of the process of availment of survivors of the AWF, taking into account the particular needs and situations of each victims/survivors.
2. The Committee will assist the survivors in undertaking the qualification process, in terms of facilitating requirements, articulating needs and problems of individual survivors and safeguarding and promoting the rights of the victims during the availment process.

拠金者からのメッセージ "Contribution from the Heart"

Ms. U read about the comfort women in the newspaper and was shocked. When she saw a newspaper advertisement about the Fund in August, she decided to withdraw her postal savings. Although she has difficulty walking, she went to the post office by herself. She had someone fill out the form and for this reason, could not make her donation anonymously. She told the postal clerk to send the entire deposit with interest and that is why the amount she contributed was not an even sum.

Ms. U twice mentioned that she had been poor all her life. As such, her contribution stems from a deep sense of sympathy. She referred to recent vociferous accusations from South Korea against Japan and believes that it is necessary for Japan to atone for past wrongdoings. When reminded that there were criticisms of the Fund and that various views had been voiced, she asserted that there should be no need to make a distinction between the government and the people of Japan.

"As a Korean Resident of Japan since Prewar Days..."

Mr. M, when first contacted on the phone, gave no impression whatever that the person at the other end, behind the Japanese name, was a Korean resident of Japan with many emotions buried deep within his heart.

His wife opposed making this donation, saying that she could not understand why a Korean should have to contribute to this particular cause. Mr. M told her that the victims were not just Koreans, but all the women in the region of the so-called Greater East Asia Co-Prosperity Sphere. He explained that it was important for him to make the donation as a person who had lived in Japan since the prewar days.

拠金者からのメッセージ "Contribution from the Heart"

Donating a Portion of My Military Pension

- As a former soldier, I am contributing a portion of my military pension. However, I would like to say that only those who were there can understand the mentality of the battlefield. I do not want you to think lightly of our experience.

Fifty Years After the War - A New Beginning

- I would prefer government apology and compensation, but I approve of a private fund as a step towards this end. This small donation is from my family of four. Please put it to good use. My father is now 77 years old and fought in Manchuria and Okinawa. I pray for the success of your Fund.
- I would like to make a small contribution to fostering good relations with other Asian nations.
- There are many women who are still suffering. Please keep up your good work.
- In addition to resolving issues of past war responsibility, I hope you will also help the fatherless children of Asian nations today, who are still the victims of irresponsible Japanese men.

Visits to Two Contributors

"I have been poor all my life..."

Ms. U lives in a home for the elderly in H city. Ms. U said that she was 82 years old, had lost her husband more than 10 years ago, had no children and was alone in the world.

提金者からのメッセージ
"Contribution from the Heart"

the reasons given by the Japanese Government will have to be taken into account, but I think compensation to the victims should take precedence over ODA (official development assistance).

- I would like you to use this donation to help the former comfort women recover their honor and dignity. However, this does not absolve the Japanese Government of further responsibility, so at the same time, please continue your various efforts to uncover the historical facts.

From Those Too Young to Know the War

- As long as one is a citizen of this country, it is not possible to escape from Japan's past mistakes or history. As a Japanese person, and as a human being, I would like to express my heartfelt apologies to all who were coerced into becoming wartime comfort women. I wish the Asian Women's Fund success.
- From a 27-year-old youth born after the war
- I am participating because I realize that the Japanese people also share the responsibility for the war.

To Make Full Atonement for the Past

- With deep humility, I would like to express my apologies to the women who were coerced into becoming comfort women. In principle, I strongly believe that Japan should make amends at the governmental level. But, fifty years after the war, realizing that these women are getting older and have little time left, I should be flexible in my convictions. As one Japanese citizen, I am sending you this donation to use as atonement. I pray that it will relieve their pains and sufferings, even if only in a small way. This must never be allowed to happen again.

"Contribution from the Heart"

A large number of individuals and citizens' groups have sent their donations to the Asian Women's Fund together with many messages. It is these messages which truly express the feelings of the contributors and show why they responded to the Fund's campaigns for contributions. These messages have been translated into English and are being passed on to the victims. Following are some of the messages:

An Apology as a Human Being

- Believing that actions are more important than words, I have made this small contribution.
- I would like to express my heartfelt apologies to the women who were forced to lead miserable lives as comfort women. I pray that they will find peace and happiness in the future. I cannot help much. However, if there is any volunteer work that I can do for two hours a day at home, please do not hesitate to ask me. I sincerely hope that you will give atonement to them as soon as possible.
- I have waited for a fund like the Asian Women's Fund. It will help to relieve the burden in my heart that I feel as a Japanese. I am very glad that the Fund has been established.

Doing What I Can, Little by Little

- I was only a child during the war, but when I later learned of the comfort women and tried to imagine their humiliation, I trembled with rage at the Japanese troops who carried out this inhumane scheme. I believe that each Japanese citizen should make amends for this crime on an individual basis. In my view, the Asian Women's Fund is a meaningful and concrete step towards accomplishing this task.
- I understand that the positions of the countries and region involved and

英訳文4

理事長の手紙

Letter from the President of the Asian Women's Fund

We know that the pain you have endured could never be atoned for with words of apology or with a monetary payment. However, we sincerely hope that you will accept our atonement as a token of our people's resolve to never repeat what happened in the past.

In cooperation with the Government of Japan, the Asian Women's Fund will launch medical and welfare assistance programs as one of the Fund's activities for atonement, the intention of which is to fulfill our moral responsibilities. The Fund will furthermore strive to make known the true facts relating to the "comfort women" issue, and proceed with study and research programs which examine relevant documents and materials to serve as lessons of history.

Since you stepped forward to pronounce your case, our eyes have been opened anew to the events of the past. The Japanese people will never forget your suffering and your courage. With all our hearts, we sincerely hope that you are able to find somewhat more peace in your life.

Sincerely,

Bunbei Hara
President
The Asian Women's Fund

(Provisional Translation)

1996

Dear Madam,

The Asian Women's Fund, established in cooperation with the Government and people of Japan, herein conveys to you the sense of atonement held by the Japanese people for the unbearable suffering you were forced to endure as a wartime "comfort woman."

At a certain time of war in the past, many comfort stations were established with an involvement of the former Japanese armed forces, and many women were recruited and forced to become "comfort women" for officers and soldiers. There were cases where young women, including 16-17 year-olds, were recruited without an indication of the fate before them, and, in occupied areas, there were cases where direct coercive means were also used. I understand that you were one of such victims.

This cruelty truly denigrated the fundamental dignity of women. As clearly acknowledged in the Prime Minister's letter, the Government and people of Japan today bear moral responsibility for the acts inflicted upon you. We also extend our heartfelt apologies to you.

I know that you not only experienced intolerable suffering during the war, but through more than 50 years since, have lived with physical damage and cruel memories.

In such recognition, the Asian Women's Fund, in cooperation with the Government of Japan, appealed to the Japanese people in a year-long campaign for contributions. Many thoughtful people responded with contributions to the Fund. Many letters accompanying contributions expressed sincere apologies and sense of atonement shared in the hearts of the Japanese people.

英訳文2

総理の手紙

Letter from the Prime Minister of Japan

Finally, I pray from the bottom of my heart that each of you will find peace for the rest of your lives.

Respectfully yours,

Ryutaro Hashimoto
Prime Minister of Japan

英訳文 /

総理の手紙

Letter from the Prime Minister of Japan

(Provisional Translation)

The year of 1996

Dear Madam,

On the occasion that the Asian Women's Fund, in cooperation with the Government and the people of Japan, offers atonement from the Japanese people to the former wartime comfort women, I wish to express my personal feelings as well.

The issue of comfort women, with an involvement of the Japanese military authorities at that time, was a grave affront to the honor and dignity of large numbers of women.

As Prime Minister of Japan, I thus extend anew my most sincere apologies and remorse to all the women who underwent immeasurable and painful experiences and suffered incurable physical and psychological wounds as comfort women.

We must not evade the weight of the past, nor should we evade our responsibilities for the future.

I believe that our country, painfully aware of its moral responsibility, with feelings of apology and remorse, should face up squarely to its past history and accurately convey it to future generations.

Furthermore, Japan also should take an active part in dealing with violence and other forms of injustice to the honor and dignity of women.

Contents

Letter from the Prime Minister of Japan


Letter from the President of the Asian Women's Fund

"Contribution from the Heart"

The Committee on the Asian Women's Fund

Activities of the Asian Women's Fund

「従軍慰安婦」にされた方々への償いのために②



発 行	改訂 1996年11月25日 初版 1996年 9月 5日
発行者	財団法人 女性のためのアジア平和国民基金 理 事 長 原 文兵衛
住 所	〒107 東京都港区赤坂2丁目17番42号
電 話	03 (3583) 9346



財団法人 女性のためのアジア平和国民基金
(アジア女性基金)

郵便振替口座

00180-3-71164

「女性のためのアジア平和国民基金」

手数料は加入者負担です。